

一箇年平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月
〇・七七									
三・一四	四・五六	四・九三	四・九二	三・七〇	三・五二	三・二二	三・〇一	二・八二	二・四八
四・六一	五・五二	五・三七	五・六九	三・七五	三・九〇	三・九六	二・九一	三・八七	四・一一
五・八九	七・二七	四・九四	四・九六	四・九六	五・〇五	五・二〇	五・三二	四・六七	七・六八
六・三四	八・九五	六・〇九	五・五五	六・一六	五・八八	六・〇八	五・八八	五・五七	五・〇二
八・一九	七・九三	八・三三	六・九五	六・六八	七・三一	七・三四	九・〇四	九・七七	八・一七
									五・五

註 四月一日乃至十四日。

前表に據れば、金の購買力は、甚だしく動搖せるに拘らず、兎に角、戦前状態との懸隔を緩和すべき頗る鞏固なる傾向を示してゐる。唯だ後高架索の紙幣發行の最後の數月のみ、最も著しき反對の變動を示してゐる。

いま、後高架索の幣制改革に就いて略述しよう。幣制改革は、一九二二年一月一日にアルメニヤに關して一回、一九二四年四月十五日に後高架索に關して二回、合計三回行はれた。

アルメニヤに於ける幣制改革は、一九二二年十二月三十一日附アルメニヤ社會主義ソウエート共和國人民委員會の法律を以つて、アルメニヤ小切手一五留に付きアルメニヤソウエート紙幣一留の銷却相場に據り、アルメニヤ小切手三同紙幣との引換を規定し、引換期限は一九二二年一月一日より二十日まで定められた。

この法律を以つて公布せる銷却相場は、實際の基礎を有してゐない。従つて一九二二年十二月三十一日現在の發行高四一、九六四、六三九・三八留のアルメニヤ小切手の中、實際に引換へられたのは、僅かに九百萬留即ちアルメニヤソウエート紙幣留に過ぎない。殘餘のアルメニヤ小切手及び尙ほ「ザクボン」「ロンドン紙幣」も廢棄せられた。後高架索に關する第一次幣制改革は、一九二三年一月十日附後高架索社會主義共和國聯邦の法律を以つて、グルジャ・アゼルバイジャン・アルメニヤの單獨發行を廢止し單一の後高架索紙幣の流通を規定した。

「グルズボン」「アズボン」「アルムソウズナク」の銷却は、後高架索紙幣（「ザクデンズナク」）一留に付き、「グルズボン」一留「アズボン」一〇〇留「アルムソウズナク」一五〇留の整理相場に據つて行はれた。

引換期限は、一九二三年一月十日より三月十日まで定め、その後に至つて、この期限は一九二四年四月十日に延期せられた。

引換に關する總額を示せば左の如くである。

各共和國の一九二三年度紙幣別引換高

(後高架索紙幣計算)

	額	面	當該紙幣に對する百分比	引換總額に對する百分比
一 『グルズボン』				
グルジャ	九六〇、八八八、三八一、〇〇〇		九八・三	七五・一
アゼルベイジャン	一三、三八〇、一四六、五〇〇		一・四	一・〇
アルメニヤ	三、三五七、三六一、〇〇〇		〇・三	〇・三
後高架索全體合計	九七七、六三五、八八八、五〇〇		一〇〇・〇	七六・四
二 『アズボン』				
グルジャ	七、四〇一、九五三、五二七		二・八	〇・六
アゼルベイジャン	二六〇、六四三、四四九、二三〇		九七・二	二〇・四
アルメニヤ	一二四、五〇三、三五〇		一〇〇・〇	二一・〇
後高架索全體合計	二六八、一六九、九〇六、二〇七		一〇〇・〇	二一・〇
三 『アルムソウズナク』				
グルジャ	五、二〇九、九〇一、五三三		一五・二	〇・四
アゼルベイジャン	三三、七〇二、六六六		〇・一	〇・〇

アルメニヤ	二九、〇八四、六一九、五三三	八四・七	二・二
後高架索全體合計	一二四、三二八、二二三、七三二	一〇〇・〇	二・六
四 各種紙幣全部			
グルジャ	九七三、五〇〇、二三六、〇六〇	—	七六・〇
アゼルベイジャン	二七四、〇五七、二九八、四九六	—	二一・四
アルメニヤ	三二、五六六、四八三、八三三	—	二・六
後高架索全體總計	一、二八〇、一二四、〇一八、四三九	—	一〇〇・〇

この引換に關する結果に據れば、後高架索の各種の紙幣は、専ら各ソウエー卜共和國の領域に流通せることが明らかである。またグルジャに頗る巨額の『アズボン』『アルムソウズナク』の流入してゐるのは、各々ティフリスに本店を有する支店より、之等の紙幣を引換の爲め、ティフリスに發送せる結果である。これは左の數字に據つて肯定することが出来る。

	後高架索紙幣の引換高	『アズボン』	『アルムソウズナク』
クルジャ全體	七、四〇一、九五三、五二七	五、二〇九、九〇一、五三三	—
内、ティフリス	七、三八五、二〇五、〇二七	五、二〇八、五〇一、五三三	—

引換高より見て、アルメニヤの割合の甚だ少額なるは、グルジヤ及びアゼルベijanは、尙ほ一九二三年一月にも巨額の紙幣を發行せるに拘らず、アルメニヤは既に一九二二年十二月に於て、その發行を停止せる爲である。一九二四年の全聯邦的幣制改革後に於ける後高架索紙幣の地位は、頗る困難なる状態となつた。而してソウエート聯邦の貨幣に、當然、後高架索紙幣の結合すべき必要は、中央政權並に地方政權をして、數多の法令を發布して後高架索紙幣を整理せしむる動機となつてゐる。

後高架索紙幣の發行は、一九二四年四月十五日より廢止せられ、同時に、ソウエート聯邦の本位貨幣一留に付き後高架索紙幣一、二五〇億留の確定銷却相場を以つて、ソウエート聯邦貨幣と後高架索紙幣の引換が開始せられた。後高架索紙幣の流通期限は一九二四年六月十五日、引換期限は一九二四年六月三十日と定められてゐる。尙ほ、この兩期限は、一九二四年五月二十一日附後高架索中央執行委員會及び後高架索人民委員會の布令に據つて、各々一九二四年六月三十日と一九二四年七月三十一日までに延期せられた。

後高架索紙幣の引換は、ソウエート聯邦貨幣にて總額百二十一萬六千八百八十八留一哥となり、これを共和國別に示せば左の如くである。

一九二四年度引換高	ソウエート聯邦貨幣	總引換高に對する百分比
グルジヤ	八一、二九四・二〇	六六・七

アゼルベijan	三九四、九五八・五四	二八・八
アルメニヤ	五四、九三五・二七	四・五
後高架索全體合計	一、二一六、一八八・〇一	一〇〇・〇

一九二四年の後高架索の幣制改革は、概して成效し、小錢の拂底は著しく緩和せられた。唯だバクウに於てのみ改革頭初は、後高架索紙幣に巨額の打歩を生ぜるも、四月末には、同地に於ても、小錢の拂底は既に全く整理せられてゐる。

第四節 トルクスタン (一九一八年十一月—一九二〇年十二月)

トルクスタンの紙幣發行は、一九一八年十一月三日附露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國人民委員會の法律に據つて開始せられた。同法は國民銀行(舊國立銀行)タシケント支店の『トルクスタン地方臨時紙幣』(『トルクボ』)の發行を規定してゐる。

次いで、一九一九年四月二十四日附露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國人民委員會の法律は、左の地方を以つて全國的紙幣に同等に『トルクボン』の流通すべき地帯を規定した。
 ザカスピスカヤ、サマルカンドスカヤ、セミパラティンスカヤ、スウイル・ダリンスカヤ、フェルガンスカヤ、
 トゥルガイスカヤ、アクモリンスカヤ地方、ヒワ及びブハラ。

『トルクボン』の發行額は、露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國人民委員會の諸法規を以つて規定せられてゐる。然し、相次いで發行權を擴張するも、多くは遅延し、實際には、既に行はれたる發行に對し、立法上その形式を完備せしめたに過ぎない。

發行權の擴張状態を示せば左の如くである。

單位『トルクボン』百萬留

一九一八年九月三日	二〇〇	一九一八年九月十七日	五〇〇
一九一九年四月二十四日	二、〇〇〇	一九一九年七月二十二日	三、〇〇〇
一九二〇年二月十三日	八、〇〇〇	一九二〇年二月二十七日	一二、〇〇〇
一九二〇年五月六日	二六、〇〇〇	一九二〇年六月二十一日	三〇、〇〇〇
一九二〇年八月二十八日	四〇、〇〇〇	一九二〇年九月十日	七五、〇〇〇

現在の断片的概算的資料に據つて、『トルクボン』の實際發行高を示せば左の如くである。

單位『トルクボン』百萬留

一九一九年三月一日	一、四〇〇	一九二〇年一月二十日	八、〇〇〇
一九二〇年二月二十三日	一〇、〇〇〇	一九二〇年四月五日	一五、〇〇〇
一九二〇年七月十五日	三二、〇〇〇	一九二〇年十二月三十一日	一〇〇、〇〇〇

一九二〇年十月十一日附露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國人民委員會並に一九二〇年十二月三十一日附トルクスタン共和国人民委員會の法律に據つて、トルクスタン及び露西亞共和国の幣制統一の基礎が規定せられた。

一九二一年一月一日以降、『トルクボン』は、全國的紙幣一留に付き『トルクボン』二〇留の銷却相場を以つて引上げられてゐる。

トルクスタンの幣制改革は、全國的紙幣一留に付き『トルクボン』二留乃至二・五留を唱へたる市場相場に相應せざるに拘らず、好成绩を以つて履行せられ、トルクスタン共和国と露西亞共和国の幣制統一も達成せられた。

第五節 西伯利並に極東 (一九一八年—一九二一年)

一九一八年乃至一九二一年代に於ける西伯利並に極東の紙幣發行は、自らこの年代の混沌たる政情を悉く反映してゐる。發行中心は、頻發する政變に密接に關連して、發生し交代し消滅した。而して數多の紙幣發行の形式は、政權を掌握せる政府の政治的特徴を反映するに對し、發行の財政的效果は、政爭場裡に角逐せる各種の勢力の經濟的勢力の關係を説明するものである。

遺憾ながら、現在の統計資料の状態は、何等か正確なる數字的結論を下すことを許さない。但しその概算も重要であつて、これに或る程度の注意を分つには充分である。

西伯利の紙幣は多種であり、その流通地域も一定せざる爲め、これを地方別に取扱はず、發行中心たる都市に關

係せしむるの最も便利である。此種の都市の中、主要のものを擧ぐれば、オムスク、イルクツク、浦羅羅維、ハバロフスク、ブラゴウエシチンスタ、ウエルフネ、ウヂメンスク、チタである。いま、之等の各都市の紙幣發行を各別に觀察しよう。

一 オムスク

オムスクの通貨發行は、一九一八年十月一日乃至一九二〇年一月五日の期間に、臨時西伯利政府及び臨時露西亞政府に據つて行はれ、左の數種の通貨が發行せられてゐる。

- 一 西伯利政府5%短期國庫債券 額面五〇〇留・一、〇〇〇留・五、〇〇〇留
- 二 露西亞政府5%短期國庫債券 額面一〇〇留・五〇〇留・一、〇〇〇留・五、〇〇〇留
- 三 露西亞政府5%短期國庫債券 額面二五留・五〇留・一〇〇留・二五〇留
- 四 大藏省證券 額面一留・三留・五留・一〇留・三〇〇留
- 五 一九一七年4%内國當業債券 一・二・三類 額面二〇〇留
- 六 一九一七年4%公債利札 額面四留五〇留

第四種第五種は、クレンスキイ政府の註文に據り、左の計畫に基づき、亞米利加に於て製造せられた。債券は五類に分割し、各類一〇〇枚宛二〇、〇〇〇組とし、各券には利札二〇枚一葉を添付してゐる。

上記數種の通貨は、發行當時は、西伯利の境域内に廣く流通し、從つて『シビルスキイ紙幣』の通稱を以つて著しい。

オムスクに於て發行せる各種の『シビルスキイ紙幣』の額面總額を示せば左の如くである。

- 一 短期國庫債券 一二、七三一、〇九五、六二五^留
- 二 大藏省證券 六三八、七〇七、二〇三
- 三 一九一七年度債券及び利札 一四、八三四、三〇二、八三八

また、オムスク發行の『シビルスキイ紙幣』の發行効果を概算すれば左の如くである。

一九一八年十月一日乃至一九二〇年一月四日にオムスクに於て發行せる『シビルスキイ

紙幣』の發行效果

- 一 十五箇月四日の總計 三八五、三〇六、五六六^{金留}
- 二 一箇月の平均 二五、四六〇、七八六

二 イルクツク

臨時露西亞政府の崩壊と共に、『シビルスキイ紙幣』の發行は、イルクツクに移され、一九二〇年一月五日より二十五日までは、イルクツク政治中央部に據つて、一九二〇年一月二十六日より二月十七日までは、イルクツク軍事革命委員會に據つて行はれた。

イルクツクに於て發行せる各種の『シビルスキイ紙幣』の額面總額を示せば左の如くである。

- 一 短期國庫債券 一、〇五〇、八五〇、〇〇〇^留

第四章 一九一四年乃至一九二四年の地方的通貨發行

- 二 大藏省證券
- 三 一九一七年度債券並に利札

一〇、八〇三、六三五
 二〇〇、一〇〇、〇〇〇
 一、二六一、七五三、六三五

總計

また、イルクツクに於て發行せる『シビルスキイ紙幣』の發行効果を概算すれば左の如くである。

- 一 四十四日の總計
- 二 一箇月の平均

一〇、八七七、一八七^{金留}
 七、四一六、二六七

之等の各發行の『シビルスキイ紙幣』は、一九二〇年二月十八日附イルクツク軍事革命委員會の布令を以つて廢棄せられた。

その後、間もなく、イルクトスカヤ縣財務課より、未だ利用せられざる紙幣及び一九一七年度債券利札に對し、その發行は全國的ソウエート發行をなす旨を表記して發行せられた。

右の表記を記入せる『紙幣』の發行は、一九二〇年二月二十六日より六月六日まで行はれ、發行額は額面總額十一億五千八百七十九萬九千二百留になつてゐる。

これを金に換算すれば、その概算的效果は左の如くである。

- 一九二〇年二月二十六日乃至六月六日に於けるイルクツク發行^{金留}「ナドベチアトキ」の發行效果
- 一 三箇月十日の總計

六八一、六四七

- 二 一箇月の平均

二〇四、四九四

三 浦鹽斯德

コルチク政府の倒壊と共に斷絶せる『シビルスキイ紙幣』のオムスク發行は、イルクツクの外、尙ほ浦鹽斯德に於て繼續せられ、始めて一九二〇年一月に、同地政權は額面一、〇〇〇留の『國立銀行浦鹽斯德支店小切手』を發行し、その相場に據つて、流通せる『シビルスキイ紙幣』と同等に取扱はれた。

浦鹽斯德支店小切手は、菱形及びケレンスキイ政府の鷲模様の透を有する亞米利加製の網目型を以つて發行したこの『網目型』代用紙幣は、爾後、『シビルスキイ紙幣』發行の爲にも、同地政權の利用する所になつてゐる。

浦鹽斯德『網目型』代用紙幣の發行は、一九二〇年六月五日まで繼續した。

浦鹽斯德に於て發行せる各種の『網目型』代用紙幣の額面總額を示せば左の如くである。

一 國立銀行浦鹽斯德支店小切手	額面一、〇〇〇留	五〇二、〇五〇、〇〇〇 ^留
二 五%國庫短期債券	額面五、〇〇〇留	四、〇九〇、六七五、〇〇〇
三 國庫短期債券	額面 五〇留	九二、七一三、四〇〇
	額面 二五〇留	二〇八、〇五七、五〇〇
四 大藏省證券	額面 三留	二五、九八一、三二三
總計		五、九三九、〇五七、二二三

浦鹽斯德網目型『代用紙幣』の發行効果を概算すれば、左の如き結果を示してゐる。

- 一九二〇年一月乃至六月四日に於ける浦鹽斯德『網目型』代用紙幣の發行効果
 - 一 五箇月四日の總計 九、八九八、四四五^{金留}
 - 二 一箇月平均 一、九二八、二六九

一九二〇年二月に、ソウェイト政權の『シビルスキイ紙幣』を廢棄せること並にこれに次いで同紙幣相場の激落せることは、極東臨時政府—沿海地方自治廳をして、『兌換紙幣の發行並に同紙幣と流通支拂證券の引換』に關する、一九二〇年六月五日附法律を發布せしむるに至つた。

この法律に據つて、『シビルスキイ紙幣』及び『網目型』代用紙幣は、新發行の紙幣に引換へねばならなかつた。而して新發行の紙幣は、その流通地域が、ソウェイト政權と干涉國間の『緩衝地帯』たる役目を演ぜる爲め、従つて『緩衝紙幣』と呼ばれてゐる。

『シビルスキイ紙幣』及び『網目型』代用紙幣の引換相場は、『シビルスキイ紙幣』又は『網目型』代用紙幣二〇〇留に付き緩衝紙幣一留と定められた。

『緩衝紙幣』は

- 一 オムスク政府の註文に據り、亞米利加に於て製造せる一〇〇留・二五留兌換紙幣並に五〇哥小額紙幣
- 二 浦鹽斯德に於て製造せる一〇留・五留・一留兌換紙幣並に三〇哥・一〇哥・五哥小額紙幣を以つて發行せられて

ゐる。

一九二〇年六月五日乃至十一月一日に發行せる之等の紙幣の額面總額を示せば左の如くである。

一 兌換紙幣	額面 一〇〇留・二五留	六五〇、〇〇〇、〇〇〇 ^留
	額面 一〇留	四、八四六、〇〇〇
	額面 五留	七〇、〇〇〇
	額面 一留	一、四五三、〇〇〇
二 小額紙幣	額面 五〇哥	四、九二〇、〇〇〇
	額面 三〇哥	七五三、四八〇
	額面 一〇哥	二二三、八一〇
	額面 五哥	一〇四、一八八、九〇〇
總計		六六二、三七〇、四七八、九〇〇

浦鹽斯德に於て發行せる『緩衝紙幣』の發行効果を概算すれば左の如くである。

一九二〇年六月五日乃至十一月一日の浦鹽斯德『緩衝紙幣』の發行効果

一 四箇月二十六日の總計

一、五四〇、三六九^{金留}

二 一箇月平均

三一六、五一四

『緩衝紙幣』の發行は、一九二〇年の初頭に於て停止せられた。爾後、沿海地方自治廳も、また沿海地方が一九二二年十月二十五日を以つて極東共和國に合併するまで、沿海地方自治廳に代はれる幾多の臨時政府も、最早紙幣を發行せず、その豫算不足は、一部は準備せる硬貨並に外國貨幣を支出し、一部は、偶然、浦鹽斯德に存在せる商品處分して填補せられた。

四 ハバロフスク

ハバロフスクに於て發行事務を開始せるは、一九一八年二月であつて、極東人民委員會の布告に基づき、紙幣の署名に據つて、『クラスノシチ・コフ紙幣』と通稱せる紙幣が發行せられた。

『クラスノシチ・コフ紙幣』の發行は、一九一八年十月六日に終了し、その發行額面額を示せば左の如くである。

額面	一〇留	三、〇七五、六〇〇 ^留
額面	二五留	三、〇六五、九七五
額面	五〇留	五、二五五、〇〇〇
總計		一一、三九六、五七五

この紙幣の發行効果を概算すれば左の如くである。

一九一八年一月二月乃至九月六日に於ける『クラスノシチ・コフ紙幣』の發行效果

一 八箇月六日の總計	五、六九八、二八七 ^{金留}
二 一箇月平均	七九一、四二九

十月十七日に、臨時西伯利政府は、ハバロフスク・ブラゴウエシチ・チタの地方ソウェート政權機關より發行せる紙幣を登録すべき指令を發布した。

この指令に基づき、一九一八年十二月に、國立銀行ハバロフスク支店に於てスタンプを捺印し、『クラスノシチ・コフ紙幣』を登録した。

また、一九一九年七月に、臨時露西亞政府は、スタンプを捺印せる『クラスノシチ・コフ紙幣』を『シビルスキイ紙幣』に引換へた。

登録並に引換の結果を示せば左の如くである。

登録せるもの	額面總額	發行總額に對する%
引換へたるもの	一〇、六六六、八八五 ^留	九三・〇
	一〇、五一五、六五五	九二・二

一九一八年乃至一九二〇年代に於けるハバロフスクの其他の紙幣發行は、専ら小錢の拂底を緩和するが爲に行はれ、特別の財政的意義を有してゐない。

五 プラゴウエシチェンスク

プラゴウエシチェンスクに於ては、既に一九一七年八月より著しく小錢の拂底を告げ、豫め數度の交渉を重ねたる結果、一九一八年よりプラゴウエシチェンスク市小額紙幣の發行を見るに至つた。(これは第一次發行には「プラゴウエシチェンスク市長アレクセエフスキイ」の署名を有する所より「アレクセエフスキイ紙幣」と稱せられてゐる。)

「アレクセエフスキイ紙幣」の發行は、相交代せる三政府に據つて行はれ、各政府の發行額を示せば左の如くである。

一九一八年一月十一日乃至十一月二日に於ける「アレクセエフスキイ紙幣」發行總額		額面總額	金	留
一	一九一八年一月十一日乃至二月二十七日のプラゴウエシチェンスク市自治廳發行	一、三〇五、八〇〇	三〇一、八四九	
二	一九一八年四月十日乃至五月十七日の黒龍州執行委員會發行	一、七七三、〇〇〇	二二三、二八九	
三	一九一八年十一月二日臨時黒龍政府發行	三三二、六〇〇	三八、四七〇	
總計		三、四一〇、四〇〇	五七三、六〇八	

一九一八年十月十七日附臨時西伯利政府の布告に基づき、國立銀行プラゴウエシチェンスク支店に於て、「アレクセエフスキイ紙幣」の登録を行ひ、その期限は一九一九年一月一日と定められた。

八月以降、「アレクセエフスキイ紙幣」は、臨時露西亞政府に據り、額面額を以つて「シビルスキイ紙幣」に引換へ

られた。

額面別に「アレクセエフスキイ紙幣」の發行並に引換の結果を示せば左の如くである。

額面	額面		發行額に對する引換%
	發行總額	引換額	
一 留	七〇七、四〇〇	二六九、一七九	三八・一
三 留	二、一九九、〇〇〇	一、一〇二、六六五	五〇・一
一 〇 留	五〇四、〇〇〇	四八〇、八二〇	九五・四
總計	三、四一〇、四〇〇	一、八五二、六六四	六〇・一

プラゴウエシチェンスクに於ける第二次發行は、黒龍州執行委員會の布告に基づき、一九一八年四月十七日に發行せる黒龍州小額紙幣である。(その紙幣には執行委員長ムウヒンの署名を有する爲め「ムウヒン紙幣」と稱せられてゐる。)

「ムウヒン紙幣」の發行額を示せば左の如くである。

一九一八年四月一日乃至十月四日の「ムウヒン紙幣」發行額		額面額(留)	金	留
一	一九一八年四月十七日乃至九月十四日黒龍州執行委員會發行	六八、六三六、七五〇	一一、七〇六、二五三	
第四章 一九一四年乃至一九二四年の地方的通貨發行			三九五	

二 一九一八年九月二十五日乃至十月四日黒龍州臨時政府發行

總計

一八、〇三三、六〇〇
八六、六七〇、三五〇
一五、七四九、六〇三

『ムウヒン紙幣』は、『アレクセエフスキイ紙幣』と同様に登録し引換へられてゐる。

『ムウヒン紙幣』の發行並に引換の結果を額面別に示せば左の如くである。

額面	額面		發行額に對する引換%
	發行額	引換額	
五 留	六、六三〇、〇〇〇	五、九二四、〇二〇	八九・三
一 五 留	三、九六三、七五〇	三、七六四、八九五	九五・一
二 五 留	一、〇九〇、〇〇〇	一、〇〇二、〇二五	九二・八
一〇〇 留	七四、九八六、〇〇〇	七三、四〇〇、一〇〇	九七・九
總計	八六、六七〇、三五〇	八四、〇九〇、〇四〇	九六・六

『アレクセエフスキイ紙幣』及び『ムウヒン紙幣』の發行額を對照すれば、前者は小錢拂底の緩和を目標とせるに對し、後者は大部分は額面一〇〇留の大額紙幣より成り、専ら純財政的事項を目的とせることを容易に看取するところが出来る。

この點は、左に掲ぐる兩紙幣の月平均發行効果を對照すれば、最も明白に肯定せらるゝ所である。

月平均發行效果

『アレクセエフスキイ紙幣』

五八、七三一 金留

『ムウヒン紙幣』

二、六〇〇、四七九

尙ほ、小額紙幣の引換は比較的尠なく、これに反して、引換當時に未だ若干の價值を保有せる紙幣の引換への多かつたことを認めねばならぬ。

臨時露西亞政府は、ソウエート政權の地方機關より發行せる紙幣を『シビルスキイ紙幣』に引換へて、黒龍州の貨幣流通を統一せるが、然しブラゴウエシチンスクに對する所要の紙幣供給問題を解決するのは不可能であつた。故にブラゴウエシチンスクに對して、新たに單獨發行を許可せられ、その結果として左の二種の通貨が發行せられた

- 一 黒龍州自治廳小額切手(額面一留・三留・一五留) 額面總額一八、〇〇〇、〇〇〇 留
- 二 國立銀行ブラゴウエシチンスク『蔷薇色小切手』 額面 五〇〇〇留 三五〇、〇〇〇 留

額面 一、〇〇〇留 一、四〇〇、〇〇〇

額面 五、〇〇〇留 一〇、〇〇〇、〇〇〇

總額 一一、七五〇、〇〇〇

右二種の發行効果を概算すれば左の如くである。

發行效果
 總額 月平均

一 一九一九年七月乃至十二月の黒龍州自治廳小額切手	一八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
二 一九一九年十二月乃至一九二〇年一月の國立銀行ブラゴウエシチンスク支店『薔薇色小切手』	五五,六八七	二七,八四三

尙ほ、此所に附記すべき點は、財政的目的を追及せる第二種の大額面の發行は、小錢拂底の緩和を目的とせる第一種の發行に比較して、その財政上の効果は更に尠ないことである。

一九二〇年一月に、國立銀行ブラゴウエシチンスク支店は、オムスクよりイルクツクに撤退せる國立銀行本店の許可に基づき、『國立銀行ブラゴウエシチンスク紙幣』の發行に着手した。この紙幣は、同支店支配人クウクシンスキイの署名を有する爲め、普通、『クウクシンスキイ紙幣』と稱せられてゐる。その發行は、一九二〇年四月に、黒龍州に於てソウエート政權の確立するに共に、國民革命委員會に據つて繼續せられ、一九二〇年九月に終了してゐる。

發行せる『クウクシンスキイ紙幣』の額面總額を示せば左の如くである。

額面	一〇〇留	二〇,〇六〇,〇〇〇留
額面	五〇〇留	一五三,七〇〇,〇〇〇
額面	一,〇〇〇留	一,七七九,一〇〇,〇〇〇
額面	三,〇〇〇留	三,七九一,二三〇,〇〇〇

額面 五、〇〇〇留
 總計

三、九七四、〇〇〇、〇〇〇
 九、七一八、〇八三、〇〇〇

また、月別に『クウクシンスキイ紙幣』の發行效果を説明すべき數字を示せば左の如くである。

發行月	額	
	發行面	金額
一九二〇年 一	六三,〇〇〇,〇〇〇	一五九,五六〇
二	九五,三〇〇,〇〇〇	一九六,三一八
三	四一六,三六〇,〇〇〇	四二八,八五一
四	三七八,二〇〇,〇〇〇	一五五,八一八
五	五〇四,〇〇〇,〇〇〇	一〇三,八二四
六	一,四八六,五〇〇,〇〇〇	一一二,四八八
七	一,一六九,五〇〇,〇〇〇	六四,二四四
八	二,四〇八,〇〇〇,〇〇〇	二四,八〇二
九	三,一九七,二三三,〇〇〇	二六,三四五
總計	九,七一八,〇八三,〇〇〇	一,三八二,二五〇

前表の示すが如く、『クウクシンスキイ紙幣』發行の財政的效果は絶えず低下した。この状況を最も明らかにす

チタに於て、始めて紙幣發行を試みたのは一九一八年であつて、著しき特徴を示してゐる。而して小錢の拂底を整理する爲め、一九一八年四月十八日以降、左の如く紙幣代用券が發行せられた。即ち國立銀行チタ支店の店印並に各々所要の署名を有する用紙に、印紙並に検査票を貼付し、その儘これを紙幣として發行した。

その外、貯藏せる五分利付國庫債券・五分五厘利付軍事公債券・自由公債券も、チタ及びウエルフネ・ウディンスクに於て、スタンプを捺印して發行せられてゐる。

紙幣代用券の製造に使用せる準備材料を消費せる爲め、西伯利ソウエート中央執行委員會より、地方執行委員會に對して、紙幣發行權を付與せる一九一八年六月四日附法律を發布せしむるに至つた。

この法律に基づき、一九一八年七月二十九日に、チタに於て額面總額二千三十五萬留のシビルスキイ兌換紙幣が發行せられた。同紙幣は、これに現はせる鐵工の像に據つて『グズネツウ』の名稱を以つて著しい。

『グズネツウ』の發行は、一九一八年八月に行はれ、發行效果より見れば概算三百八十萬三千七百三十三金留となつてゐる。

臨時西伯利政府に政權の移るゝ共に、この紙幣は、同政府の一九一八年十月十七日附命令に據り、スタンプを捺印して登録せられ、一九一九年三月十三日までに登録せるは額面總額千九百二十九萬一千五百留又は發行總額の九五・三%である。

臨時西伯利政府及び臨時露西亞政府時代には、チタに於て『シビルスキイ紙幣』が流通した。而してコルチク政

府の没落と共に、一九二〇年一月四日より、チタ政權はセメヨノフ將軍に歸した。然るにオムスクよりの通貨補給の杜絶せる爲め、新たに紙幣を發行すべき必要を生ぜしめたる結果、『國立銀行チタ支店小額證券』（『セメヨノフ紙幣』）が發行せられてゐる。

『セメヨノフ紙幣』の發行は、一九二〇年二月十八日より八月十七日まで行はれ、その額面總額を示せば左の如くである。

額面	一〇〇留	一、二二四、二二二、六〇〇
額面	五〇〇留	八、六二四、八二〇、〇〇〇
總計		九、八四八、九四二、〇〇〇

『セメヨノフ紙幣』の發行效果を概算すれば、左の如き結果となつてゐる。

七箇月の總計	五、三〇三、一四六	金留
月平均	七五七、五九二	

チタは一九二〇年十月にバルタイザンの爲に占領せられ、次いで政權を掌握せる極東共和國政府は、一九二〇年十一月二十五日附を以つて、『紙幣流通に關する法律』を發布し、同法第四條に基づき『セメヨノフ紙幣』は廢棄せられた。これと同時に、極東大藏省は、政府機關並に官吏に對して、國庫に『セメヨノフ紙幣』の殘部を引渡すべきこ

ミを命じ、その命令に據つて、一九二二年四月四日までに、額面總額十四億九千二百五十六萬二千七百留又は發行總額の一五・二%の『セメノフ紙幣』が國庫に引渡された。

一九二〇年十月以降、『緩衝紙幣』の發行は、ウエルフネ・ウディンスクよりチタに移され、同地に於て一九二一年五月まで發行せられた。チタに於ける『緩衝紙幣』の發行額は、額面總額二十億五千六十六萬六千六百三留である。

チタ時代の『緩衝紙幣』の發行効果を概算すれば、左の如き結果となつてゐる。

チタ時代の『緩衝紙幣』發行效果

一 七箇月の總計	一、三四一、九八四
二月 平均	一九一、七一一

金留

『緩衝紙幣』の發行を中止するに共に、その相場は益々下落し、一九二二年末には『緩衝紙幣』一、〇〇〇留の價值は一金哥以下となり、慘落の結果、『緩衝紙幣』は自然に流通せざるやうになつた。

第六節 西伯利及び極東に關する總括的斷定

西伯利の紙幣發行の漸次發達せる経路には、若干の一般的趨勢を窺ふことが出来る。

最初、一九一八年の初期には、地方の金庫は、中央より入手せる頗る巨額の豫備紙幣を所有するも、小額紙幣に缺乏せる爲め、これを利用するのは頗る困難であつた。従つて西伯利に於ける初期の紙幣發行は、小錢の拂底を緩和

する目的を以つて試みられてゐる。次いで中央との連絡が圓滑に行はれざる爲め、豫備紙幣を消費せしむるに至つた。これは各地に於て、財政上の目的を有する紙幣發行を見る動機となつてゐる。

一九一八年十月までは、之等の紙幣發行の試は、ソウエート政權の名を以つて行はれ、西伯利の政權が臨時西伯利政府に移るに共に、西伯利に於ける爾後の流通貨幣の先驅として、根本的變革を生じてゐる。發行中心となれるはオムスクであつて、同地より西伯利に對して、反革命の資金供給上、顯著の役目を演ぜる新型紙幣が供給せられ、同時に新たな基礎に立脚せる西伯利の通貨統一が大々的に行はれた。然るにオムスクの發行機關の微力なる爲め、全般の統一の傾向より、或る程度まで讓歩せしむるに至り、その結果、再び財政上の目的に小錢拂底の緩和を目的とする地方的通貨の發行を見るに至つた。

凡てこの過程は、コルチャク政府の没落に據つて中斷せられ、新たな條件を基礎として、更に二つの一般的傾向が現はれてゐる。第一の傾向は廢止的傾向であつて、白軍紙幣並に臨時の地方ソウエート紙幣の廢止を始めとし、種々の基礎に據れる紙幣回収に至る各種の形式に現はれてゐる。第二の傾向は、組織的傾向であつて、これは極東共和國の幣制を制定せしむるに至つた。

然し、更に廣汎の基礎に立脚して、流通貨幣の統一に努力する中央の勢力は、『緩衝紙幣』を廢棄する衝動となり、二段の結果に導いてゐる。西部西伯利は、露西亞社會主義聯邦ソウエート共和國の通貨を採用し、極東に於ては、その統一の過程は稍々遅延してゐる。極東は、『緩衝紙幣』を廢止するに共に、始めは硬貨を流通せしめたるも、一

九二四年の幣制改革後、ソヴェート聯邦の通貨は、漸く極東邊境にも普及してゐる。

第七節 一九二四年乃至一九二四年の地方的 通貨發行に關する結論

以上、地方的通貨發行に關して概説せる短篇は、勿論、大戰並に革命時代の複雑にして多面的なる貨幣流通の過程を、完全に調査すべき基礎となることは出来ない。

然し、兎に角、何等かの結論を下し得べく、且つこれを行ふのは適當であると思ふ。

戰時並に革命時代に於て、幾多の分裂と統一の過程の相交代せる紙幣發行の變革を綜合する爲に、最も重要な事項となつてゐるのは、地方の單獨的傾向に對して、中央の統一政策の明かに優越せる點である。結局、一九二四年の幣制改革の結果として、ソヴェート聯邦の幣制統一は、全聯邦的規模に於て實施せられた。

中央の統一政策の進捗せる原因は、聯邦全體の財政も地方の財政も確立して、ソヴェート聯邦の幣制の整理せられた點に存在するものである。

留の定安は、地方をして單獨の發行政策を放棄せしめて、地方的發行を全聯邦的幣制と合一せしむる重要な衝動となつてゐる。

Торг. Палаты/.

“Торговые Известия” /взамен бюллетеня НКВнуторга/.

“Кредит и Хозяйство”, журнал.

Журналы:

- “Бюллетень Госплана”.
- “Вестник Труда”. /ВЦСПС/.
- “Внешняя Торговля”.
- “Вопросы Организации и Управления”.
- “Вестник Промышленности и Торговли”.
- “Вестник Финансов”.
- “Вестник Статистики”/ орг. ЦСУ/.
- “Жизнь Связи”.
- “Народное Хозяйство Украины”.
- “Промышленность и Торговля”.
- “Статистический Бюллетень ЦСУ Украины”.
- “Союз Потребителей”.
- “Бюллетень ЦСУ”.
- “Экономический Вестник” -орг. Высшего Экономсовета АССР.
- “Социалистическое Хозяйство”.
- “Экономическое Обозрение”.
- “Экономическое Строительство”.
- “Финансовый Вестник”.
- “Финансы и Промышленность”.
- “Экономический Бюллетень Конъюнктурного Института”.

- “Экономическая Жизнь Дальнего Востока”.
- “Юго-Восток”.
- “Жизнь Сибири”.
- “Вестник Промышленности, Торговли и Транспорта”.
- “Финансовый Бюллетень Украины”.

1924 год.

Те же, что в 1923 г., и, кроме того, следующие:

Газеты:

- “Финансовая Газета”.
- “Бюллетень Наркомвноторга”.

Журналы:

- “Вопросы Советского Хоз. и Управления” /орг. ЦИК и НК РКИ/.
- “Промышленность и Торговля” /орг. Сев-Зап. Обл. Эконо/.
- “Вопросы Труда” /орг. НКТ /.
- “Экономический Вестник Закавказья”.
- “Народное Хозяйство Ср. Азии”.
- “Хоз. Сев-Зап. Края”.
- “Советское Приморье”.

1925 год.

Те же, что в 1923 и 24 г. г., и, кроме того, следующие газеты:

- “Торгово-Промышленный Курьер”. /орган Сев-Зап. Обл.

“Союз Потребителей”.
“Московская Промышленность”.
“Промышленность и торговля”.
“Известия Украинского Совета Народного Хозяйства”.
“Бюллетень ЦСУ”.
“Статистический Бюллетень ЦСУ Украины”.
“Экономист”.
“Вестник Труда”.
“Внешняя Торговля”.
“Народное Хозяйство Украины”.
“Вестник Торговли и Промышленности”.
“Экономический Бюллетень Конъюнктурного Института”.
“Экономический Вестник Экономсовета АССР”.
Обзор Народного Хозяйства.
“Вестник Промышленности и Торговли”.
“Финансовый Вестник” Изд. Упр. Уполн. НКФ Украины.

1923 год.

二

Газеты:

“Известия ВЦИК”.
“Кооперативное Дело”.
“Петроградская Правда” /с/ 1924 г. “Ленинградская Правда”/.

“Правда”.
“Продовольственная Газета”.
“Рабочая Москва”.
“Торгово-Промышленная Газета”.
“Труд”.
“Экономическая Жизнь”.
“Украинский Экономист”. Изд. Экономсовещания УССР.
“Звезда”-еженед. орг. Центр. Бюро Коммунистической партии Белоруссии.
“Заря Востока”-ежедневный орган Закавказского Краевого К-та РКП и Закавказского ЦИК’а.
“Советская Сибирь”-ежедневный орган Сиббюро ЦК РКП и Сибревкома.
“Советский Юг”-ежедневный орган Юго-Вост. Бюро ЦК РКП и Краевого Экономсовета.
“Туркестанская Правда”-ежедневный орган ЦК КПТ Туркцика и Туркбюро ВЦСПС.
“Уральский Рабочий”-ежедневный орган Уральского Областного бюро ЦК РКП., Уралэкономсовета и Екатеринбургского губкома РКП.
“Красный Крым”-ежедневный орган ЦИК Крыма, областного к-та РКП и Крымского совета профсоюзов.

三

/Фин. Изд. 1925/.

Совольников, Г. Я. Финансов. полит. революции /Изд. НКФ. Москва. 1925 г., стр. 298/.

Сокольников, Г. Я. Денежная реформа. /Фин. Изд. НКФ СССР. Москва. 1925 г., стр. 176/.

Трахтенберг, Н. Бумажные деньги. /Изд. Гос. Изд. Москва. 1925 г., стр. 413/.

Шанин, Л. Денежная система в свете марксистской теории. /Изд. "Эконом. Жизнь". Москва. 1925 г., стр. 133/.

Газеты и журналы.

1918 год.

Газеты:

"Правда".

"Известия ВЦИК."

"Экономическая Жизнь".

"Торгово-Промышленная Газета". /прежнее изд./-вплоть до закрытия.

"Русские Ведомости" /впосл. "Свобода России"-вплоть до закрытия.

Журналы:

"Народное Хозяйство".

1919, 1920 и 1921 г. г.

Газеты:

"Правда".

"Известия ВЦИК".

"Экономическая Жизнь".

Журналы:

"Народное Хозяйство".

"Известия НКФ".

1922 год.

Газеты:

"Экономическая Жизнь".

"Кооперативное Дело".

"Известия ВЦИК".

"Правда".

"Торговая Газета" /с июля-"Торг.-Пром. Газета"/.

"Продовольственная Газета".

"Труд".

"Хозяйство Украины".

"Петроградская Правда".

Журналы:

"Известия Народного Комиссариата Финансов".

"Известия Высшего Совета Народного Хозяйства".

"Вестник Финансов".

лад, сделанный 5 декабря 1923 г. на Советании НКФ партийными и научными работниками в области финансов/. Второе дополненное издание. /Изд. "Фин. Газеты". Москва. 1924 года, стр. 52/.

Сокольников, Г. Я. Денежная реформа и пути ее закрепления./ Гос. Изд. Москва. 1924 г., стр. 42/.

Сокольников, Г. Я. Бюджет и валюта. /Изд. "Эконом. Жизнь". Москва. 1924 г., стр. 20+6/.

Солдатов, Л. К. Революция ценности золота на мировом рынке и в России. С предисловием проф. Л. Н. Юровского. /Изд. РИО. ВСНХ. Москва. 1924 г., стр. 92/.

Статистический сборник по государ. бюджету и денежному обращению за 1922-23 г. и первое полугодие 1923-24 г./Изд. НКФ СССР. Москва. 1924 г., стр. 94/.

Фалькнер, И. А. проф. Проблемы теории и практики эмиссионного хозяйства. /Изд. газ. "Эконом. Жизнь". Москва. 1924 г., стр. 250/.

八 **Федоров, Яков.** Старые и новые деньги. Денежная реформа 1924 г. /Госуд. Изд. Москва. 1924 г., стр. 52/.

Финансы и денежное обращение в современной России. Сборник статей проф. М. Боголепова, И. Кулишера, Д. Лоевского и др., с предисловием проф. В. М. Штейна/Изд.

"Петроград". Ленинград-Москва. 1924 г., стр. 144/.

Фрей, Л. И. Денежная реформа. С предисловием П. И. Фомина. /Изд. ВСНХ УССР. 1924 г., стр. 254/.

Швецов, А. И. Денежная реформа и кооперация. /Изд. Центросоюза. Москва. 1924 г., стр. 35/.

Шлейфер, И. О. Денежная реформа. /Изд. "Фин. Газ." Москва. 1924 г./.

Шульце, Эрнст, проф. Распад современных валют /крах девизных курсов и его торгово-практические последствия./Изд. "Книжный Угол". 1924 г., стр. 184/.

Юровский, Л. Н. На путях к Денежной реформе. /Издан. "Фин. Газ". Москва. 1924 г., стр. 114/.

Яснопольский, Л. Н. Рынок золота за границей и в России./ Изд. Киевского Губ-Экосо. Киев. 1923 г., стр. 27/.

1925 год.

Вайсберг, Р. Деньги и цены/подпольный рынок в период военного коммунизма/. Пред. проф. И. А. Трахтенберга./ Изд. "план Хоз." Москва. 1925 г., стр. 163/.

Кузовков, Д. Основные моменты распада и восстановления денежной системы/Изд. Ком. Акад. Москва, 1925 г., стр. 485/.

Соколов, А. Скорость обращения денег и товарные цены

Декреты и постановления. /Изд. "Фин. Газеты". Москва. 1924 г., стр. 35/.

Евзлин, З. П. Деньги. /Бумажные деньги в теории и жизни/. Под ред. и с предисловием проф. М. И. Боголепова. /Изд. "Наука и Жизнь". Ленинград. 1924 г., стр. 220/.

Каменев, Л. В. О денежной реформе. Доклад на заседании Пленума ЦК РКП 31 марта 1924 г. /Изд. "Красная Новь". Москва. 1924 г., стр. 29/.

Каменев, Л. В. Денежная реформа. /Изд. "Прибой", г. Ростов н/Д. 1924 г., стр. 32/.

Каценеленбаум, З. С. Денежное обращение России 1914-25 г. /Изд. "Эконом. Жизнь" Москва. 1924 г., стр. 192/.

Кузовков, Д. Налоговой фронт и денежная реформа. /Изд. журнала "Власть Советов" Москва. 1924 г., стр. 64/.

Кузовков, Д. Материалы по теории и политике денежного обращения в России 1914-23 г. /"Вестн. Ком. Акад". 1924 г. No. 4/.

Кузовков, Д. Наши валюты. /"Вестн. Ком. Акад". 1924 г. No. 7/.

Курсель, К. П. и Лукасюк, А. А. Денежное обращение на русском Дальнем Востоке с 1918 по 1924 г. Под ред. Б. М. Берлацкого. /Изд. "Книжное Дело". Чита 1924 г., стр. 63/.

Леонтьев, А. От падающих денег к твердым. /Изд. "Молодая Гвардия". Смоленск. 1924 г., стр. 68 с диагр./.

Миронов. Новые твердые деньги. /Изд. "Красная Новь". Главполитпросвета. Москва. 1924 г., стр. 26/.

Наумов, Л. Что такое денежная реформа. /Изд. "Фин. Газеты". Москва. 1924 г., стр. 29/.

Погребецкий, А. И. Денежное обращение и денежные знаки Дальнего Востока за период войны и революции. /Изд. О-ва Изучения Манчжурского края и Дальневосточн. Сибир. О-ва "Книжное Дело". Харбин. 1924 г., стр. 420/.

Промышленность и денежная реформа. /Изд. Совета Съездов промышл., торговли и транспорта. Москва 1924 г., стр. 52/.

Рагольский, М. Н. Денежное обращение Сов. России. /Изд. П/Отдела Печати Сар. Губкома РКП. Саратов. 1924 г., стр. XIV + 122/.

Розентул, С. Денежная реформа /Больша за устойчивые деньги/. Под ред. Слушкова. /Изд. "Путь Просвещения" Харьков 1922 г., стр. 50/.

Слушков, Вадим. Бумажные деньги. Изд. "Кр. Новь". Главполитпросв. Москва. 1924г., стр. 32/.

Собольников, Г. Я. От дензнака к твердой валюте. /Док-

стр. 636/.

Денежные курсы и товарные цены 1920-1923 г. Под ред. проф. Н. Н. Деревенко и Н. В. Якушкина./ Изд. "Вся Россия". Москва. 1923 г., стр. 120 + 5.

Евзлин, З. П. Деньги. Под ред. и с предисловием проф. М. Боголепова. /Петроград. 1923 г./.

Лоевецкий, Д. Денежное обращение и государственные займы. Популярный очерк./Изд. НКФ. Москва. 1923 г./.

Лоевецкий, Д. А. Валютная политика и валютное законодательство. /Изд. газеты "Эконом. Жизнь". Москва. 1923 г., стр. 48/.

Первущин, С. Вольные цены и покупатель. силы русского рубля 1917-1921 /Ис. нэпа/ к вопросу о ценностных сдвигах /Москва, 1923 г. изд. НКФ/.

Радецкий, Ф. К. Что такое банкноты./Изд. НКФ. Москва. 1923 г., стр. 27/.

Сборник главнейших статистических сведений по государственному бюджету, денежному обращению, кредиту, движению цен и курсов за 1922 г. и начало 1923 г., с приложением диаграмм./Изд. НКФ. Москва. 1923 г., стр. 119/.

Соколов, А. А. Проблема денежного обращения и валютной политики./Изд. НКФ. Москва 1923 г., стр. 304 + XX/.

Сокольников, Г. Я. От дензнаков к твердой валюте./Изд. "Красная Новь" Москва. 1924 г., стр. 28/.

Статистический сборник по общегосударственному бюджету, денежному обращению и движению цен с октября 1922 г. по сентябрь 1923 г. /Изд. НКФ. Москва. 1923 г., стр. VIII + 102 + 5 табл./.

Штейн, В. М. проф. Червонная валюта. /Гос. Акад. Изд. Петроград. 1923 г., стр. 63/.

1924 год.

Базаров, В. К. К методологии изучения денежной эмиссии /"Вестн. Ком. Акад." 1924 г. No. 4/.

Боголепов, Д. Д. Деньги Советской России./Изд. "Прибой". Ленинград. 1924 г., стр. 90/.

Бронский, М. "За оздоровление денег" /о денежной реформе/. /Изд. "Красная Новь", Москва. 1924 г./.

Гаврилов, Л. Г. Денежное хозяйство и кредит в СССР. Со вступительной статьей П. Г. Моисеева: "О кредитной грамотности в деревне". /Изд. Нижволсельбанка. Саратов. 1924 г., стр. 138/.

Денежная реформа. Сборник./Изд. МК РКП. Москва. 1924 г., стр. 31/.

Денежная реформа, снижение цен, заработная плата.

1921 год.

Крестинский, Н. Наша финансовая политика. /Гос. Изд. Москва. 1921. г./.

Обзор финансового законодательства 1915-1921 г./Изд. Инст. Эконом. Исслед. Петроград. 1921 г. /.

1922 год.

Боголепов, М. Н., проф. Бумажные деньги./Изд. Т-ва "Коопер. Изд-во". Москва. 1922 г. /.

Денежное обращение и кредит в России и за границей. Том I-й. 1914-21 г. г./Издание НКФ. Москва-Петроград, стр. 640/.

Каценеленбаум. Очерки по теории и практике денежного обращения. / Изд. Инст. Эконом. Исслед. НЕФ СССР. 1922г. Москва./.

Каценеленбаум. Учение о деньгах и кредите, ч. ч. I-II /1922 г./.

Клейман, Т. А. Бумажные деньги и дороговизна. /Изд. Т-ва "Культура Крыма". Севастополь. 1922 г., стр. 73/.

Кулипер, И. М. Денежное обращение в прошлом и настоящем./Изд. "Полярная Звезда". Петроград. 1922 г., стр. 74/.

Ленин, Н. О значении золота теперь и после полной победы социализма. /Гос. Изд. Москва. 1922 г., стр. 14/.

Материалы по денежной реформе 1893-1895 г. под ред. проф. А. И. Буковецкого. Вып. I./Изд. Инст. Эконом. Исслед. НКФ. Петроград-Москва. 1922 г., стр. 210/.

Первухин, С. Вольные цены и покупательная сила русского рубля./Изд. Инст. Эконом. Исслед. НКФ СССР. Москва. 1922 г./.

Причины падения курса нашего рубля. /Изд. НКФ. Москва. 1922 г., стр. 54/.

Преображенский, Е. Причины падения курса нашего рубля. /Изд. НКФ. Москва. 1922 г./.

Преображенский, Е. Бумажные деньги в эпоху пролетарской диктатуры. /Гос. Изд. Украины. Харьков. 1922 г./.

Сокольников, Г. Я. Хозяйство и деньги. /Изд. Фин. Эконом. Бюро НКФ. Москва. 1922 г., стр. 40/.

Сокольников, Г. Денежное обращение и экономика Сов. России./Изд. Фин. Эконом. Бюро НКФ. СССР. Москва. 1922 г./.

Шмиц, О.Н. Матем. законы денежной эмиссии ГИЗ. 1922 г.

1923 год.

Гальперштейн, Я. Падение курса и как с ним бороться. /Изд. "Московский Рабочий". Москва. 1923 г., стр. 20/.

Денежное обращение и кредит в России и за границей 1914-1921 г./Изд. Инст. Эконом. Исслед. НКФ. Москва. 1923г.,

露亞經濟調查叢書
勞農露國研究叢書

既近刊總目錄

БИБЛИОГРАФИЧЕСКИЙ УКАЗАТЕЛЬ

по вопросам денежного обращения за 1918-1925 г. г.

Книги и брошюры.

1918 год.

А. Н. Зак. Денежное обращение и эмиссионная операция в России /1917-1918 г/. Государственные кредитные билеты-банкноты. /Изд. Комитета с'ездов представит. акционерн. коммерч. банков. Петроград. 1918/.

Вопросы денежного обращения. Доклады М. В. Бернацкого, А. Н. Гурьева, А. Н. Зака, В. С. Зива, В. И. Лодыженского, А. З. Ломейера и Ф. А. Менькова и их обсуждение. Под редакцией А. Э. Ломейера. /Петроград. 1918. Издание Центральн. Народн. Промышлен. К-та, отдел Внешн. Торг./.

Каценеленбаум, З. С. Обесценение рубля и перспективы денежного обращения. Труды I-го очередн. Всеросс. Коопер. с'езда 18-24 февраля 1917 г. /Изд. Совета Всерос. Коопер. с'ездов. Москва/.

1920 год.

Соколов, А. А., проф. Обесценение денег, дороговизна и перспективы денежного обращения в России. /Екатеринодар. Типогр. I-я Пол. отд./.

露亞經濟調查叢書

既刊

- ソウエート聯邦總覽
- ソウエート聯邦總覽
- ソウエート聯邦總覽
- ソウエート聯邦總覽
- 最新ソウエート聯邦地圖
- 露國に於けるポリシエヴィズム發達史
- 露國に於けるポリシエヴィズム發達史
- ソウエート聯邦の資源ミ産業
- ソウエート聯邦の資源ミ産業
- ソウエート聯邦の資源ミ産業
- ソウエート聯邦の資源ミ産業

既刊、近刊總目錄

- 第一卷
- 第二卷
- 第三卷
- 第四卷
- 第五卷
- 上卷
- 下卷
- 穀類編
- 亞麻編
- 毛皮編
- 石炭業編

ソウエート

既刊、近刊總目錄

ソウニート聯邦の資源ミ産業

石油編

ソウニート聯邦の資源ミ産業

鐵・滿俺編

勞農露國の生産ミ消費

勞農露國の産業ミ電化計畫

勞農露國土地法の研究

ソウニート農村の研究

露國農民の課税及其他負擔重度の研究

國際市場に於ける露國協同組合

亞細亞露西亞の國土ミ産業

國土編
産業編

亞細亞露西亞の住民

亞細亞露西亞の交通

露領極東地誌

上卷
下卷

露領極東地誌

露領極東の資源ミ産業

露領極東の農業ミ植民問題

露領極東の林業ミ林況

露領極東の森林利權

露領極東の鑛産

上卷
下卷

露領極東に於ける職業組合の組成

露領沿海地方の農業

露領沿海地方の自然ミ經濟

露領沿海地方の自然ミ經濟

沿海州及び黑龍州産の小麥並にライ麥の穀粒研究

露領黑龍州の氣候・土壤・植物研究誌

露領黑龍州の氣候・土壤・植物研究誌

露領黑龍州の畜産業

露領黑龍州の畜産業

勸察加調査書

勸察加調査書

既刊、近刊總目錄

上卷
下卷
上卷
下卷
第一編
第二編
第三編

既刊、近刊總目錄

- 勸察加調査書
- 勸察加調査書
- 勸察加調査書
- 北滿洲ミ東支鐵道
- 北滿洲ミ東支鐵道
- 滿洲植物誌
- 滿洲植物誌
- 滿洲植物誌
- 滿洲植物誌
- 黑龍江省
- 黑龍江省
- 外蒙共和國
- 外蒙共和國
- 露領極東の礦業利権
- 露領極東の礦業利権
- ソウニート聯邦貨幣史
- ソウニート聯邦經濟十年史

- 第四編
- 第五編
- 第六編
- 上卷
- 下卷
- 第一卷
- 第二卷
- 第三卷上編
- 第三卷下編
- 上卷
- 下卷
- 上卷
- 下卷

近刊

- 露國に於ける資本主義の發達
- 西比利の行政經濟事情
- 露領極東の魚類及毛皮資源
- ソウニート聯邦の工業
- ソウニート聯邦の國營貿易論
- 黑龍江系水路誌
- 黑龍江系水路誌
- 黑龍江及支流の航運
- 黑龍江及支流の航運
- 黑龍江及支流の航運
- 露領極東に於ける黃色人種問題
- 露國に於ける諸民族の研究
- ソウニート聯邦の國勢統計
- 滿洲植物誌
- 滿洲の森林
- 露國國民經濟史

- 上卷
- 下卷
- 上卷
- 下卷
- 上卷
- 下卷
- 第四卷

勞農露國研究叢書

既刊

- 第一編 統治組織及機關、各聯盟共和國概要
- 第二編 外國人の法律的地位、私營事業及私有財産權、工業組織、トラスト模範定款、露國工業法概要、勞働需給關係
- 第三編 革命後の農村經濟狀態、農村經濟統計、國營事業、露領極東及西比利の經濟事情、自治共和國及自治州
- 第四編 通商事情、外國貿易の制度及組織
- 第五編 工業經濟に關する指導的意見、共產黨第十二回大會決議、工場委員會、國民教育
- 第六編 社會保險、勞農國家ニ對し、言論機關、地方統治組織、軍事

既近刊總目錄 終

昭和三年十二月十日印刷
昭和三年十二月十五日發行

ソウェート聯邦貨幣史

不許複製
定價

南滿洲鐵道株式會社編纂

代表者 佐田弘治 耶

印刷所 東亞印刷株式會社大連支店
大連市近江町九十一番地

發行所 大阪毎日新聞社
大阪府北區堂島(總發大阪四五〇番)

同 東京日日新聞社
東京市丸之内(總發東京二八〇〇番)

(二七〇一)

25. 7. 17.

九島自由党

終